

三成小だより

令和6年度 12月号

令和6年12月2日
富山市立三成小学校

読書活動をよりよいものに



図書担当 光里 誠

11月は「読書月間」として、図書委員会の子供たちを中心に様々な取組を企画しました。

全校の子供たちに様々な種類の読書を促す取組として、「図書ビンゴ」を行いました。これは、「歴史・地理」や「芸術」、「富山の本」など指定された分野の本を借りて読んだらビンゴが完成していく取組です。学年を問わず、多くの子供たちが図書室に足を運び、「あと物語の分野の本を読めば、ビンゴだよ!」と楽しみながら本を借りていました。全校の子供たちから募った“おすすめの本”を、図書委員会が動画で紹介する「おすすめの本紹介」も行う予定です。

また、図書室のルールについて伝えたり、読書への気持ちを高めたりするための取組として、全校で「図書集会」を行いました。図書委員会の子供たちが司会進行を務め、読書を促す声かけや、図書室のルールを伝えるクイズや劇を行いました。集会後、全校の子供たちに感想を聞いたところ、「読みたい本の探し方が分かった」「図書室では静かに過ごそうと思う」など、ルールやマナーを守って図書室を使いたいという思いをたくさん聞くことができました。



【図書集会の様子】

「読書離れ」という言葉が多く聞かれる昨今ですが、子供たちが自分たちで、読書の面白さを伝えたり、図書室のルールを守ろうという気持ちを高め合ったりすることで、楽しみながら進んで読書する子供たちに育ってほしいと思います。



自分も相手も大切に～伝え合おう・分かり合おう みんなの気持ち～

養護教諭 成瀬 智恵

今年度の学校保健委員会は、自他を大切にしたい伝え方ができるようになってほしいと願い、自分の考えや気持ちを適切に自己表現しながら、相手の気持ちをも受け止める「アサーション」を取り入れました。

三成っ子は、異学年とも仲がよいと感じます。しかしその一方で、クラス替えがなく保育園の頃からずっと共に生活をしているためか、固定化しがちな友人関係から抜け出したり、別の友人関係に加わったりすることが出来ずにいる子供もいると感じます。また、距離感の近さからか、強い言葉で相手に注意してしまったり、友達と意見がぶつからないように自分の意見を言えず、気を遣って譲ってしまったりすることもあるようです。

このような三成っ子の様子から、自分も相手も共に大切にしたい表現を身に付けることができるように、生活委員を中心に学校生活に即した多くの場面を設定し、その場に即した伝え方や表現の仕方を繰り返し伝えていくところです。まだ思うように友達同士でうまくやり取りができないことも多く見られますが、「その言い方でいいかな?」と聞き直すことで、「あっ・・・」と気付く子もいます。継続的に取り組むことで、自分の気持ちや考えを適切に友達へ伝えられる子、相手のことを理解しようとする子の育成に努めています。教職員は子供たちが安心して自分の気持ちを伝えられるように、自他を大切にしたい言動の手本を示していきたいと思っています。